

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00870

研究課題名（和文）世代間移転と社会経済的地位・格差の継承に関する実証分析

研究課題名（英文）Empirical Analysis of the Transmission of Intergenerational Transfers and Socioeconomic Status and Inequality

研究代表者

C. Y. Horioka (HORIOKA, Charles Yuji)

神戸大学・計算社会科学センター・特命教授

研究者番号：90173632

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,260,000円

研究成果の概要（和文）：近年、社会経済的地位の格差や資産格差が深刻な社会問題になっている。その中、最近の研究では、世代間における社会経済的地位の相関が強く、社会経済的地位が代々継承される傾向にあることが示されている。しかし、世代間移転（親から子への教育投資や遺産、生前贈与等）が、世代間の社会経済的地位および格差の継承にどの程度貢献しているのかは明確にされてこなかった。そこで、本研究では親から子への様々な形の世代間移転が、世代間の社会経済的地位の継承、それに伴う格差の継承にどの程度貢献しているのかを、日本などからの個票データを用いて分析することによって明らかにし、分析結果に基づいて格差を軽減するための政策提言を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の貢献は以下の五点である。まず、第一に、本研究は、世代間の社会経済的地位および格差の継承における世代間移転の役割について検証しているほとんど初めての試みである。第二に、本研究は、親から子への移転を網羅的に捉え、様々な形の世代間移転（親から子への教育投資や遺産、生前贈与等）を同時に考慮している。第三に、本研究は、複数の国の状況を分析し、国際比較を行っている。第四に、今までは社会学的な分析が多かったが、本研究は、経済学的な観点から分析を行っている。第五に、本研究は、分析結果に基づいて格差を軽減するための政策提言を行っており、そうすることによってこの深刻な問題の解決に役立つことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：In recent years, disparities in socioeconomic status and wealth disparities have become a serious social problem. Recent research has shown that the intergenerational correlation of socioeconomic status is high and that socioeconomic status tends to be passed on from generation to generation. However, the extent to which intergenerational transfers (for example, educational investments, bequests, and inter vivos transfers from parents to children) contribute to the intergenerational transmission of socioeconomic status and inequality has not been investigated. In this research, we used micro data from household surveys conducted in Japan and other countries to show the extent to which various types of intergenerational transfers have contributed to the intergenerational transmission of socioeconomic status and of inequality and then derive policy implications about how to alleviate inequality.

研究分野：経済学

キーワード：社会経済的地位 世代間移転 遺産 生前贈与 教育投資 資産格差 資産蓄積 貯蓄

1. 研究開始当初の背景

(1) Thomas Piketty という著名なフランス人経済学者が 2013 年に出版した書物 *Capital in the Twenty-first Century* (『21 世紀の資本』) の中で、世界中で資産格差が急速に拡大していることに対して警鐘を鳴らし、その書籍は世界的ベストセラーとなり、Piketty 先生はその続編を何冊か出版している。それ以来、格差問題が世界中で大きな社会問題になっている。その格差問題について論じる際、ある一時点において社会経済的地位の格差がどれだけあるかは言うまでもなく非常に重要であるが、世代間における社会経済的地位の相関がどれだけ高く、社会経済的地位の格差がどの程度代々継承されるかも同じくらい重要であり、研究に値する。なぜならば、スタート時点において人々が平等であることが望ましく、スタート時点においてすでに大きな社会経済的地位の格差があることは望ましくないからである。

(2) これまでの研究では、世代間における社会経済的地位の相関が強く、社会経済的地位が代々継承される傾向にあることが示されている。しかし、世代間の社会経済的地位および格差が代々継承されるメカニズムは未だに明らかにされておらず、様々な世代間移転が原因なのか、遺伝が親子で共通していることが原因なのか、子供が直面する家庭環境・ソーシャルネットワークなどが親の社会経済的地位によって異なるからなのか、あるいはそれ以外のメカニズムがあるのかは明らかにされていない。特に世代間移転(親から子への教育投資や遺産、生前贈与など)が、世代間の社会経済的地位および格差の継承にどの程度貢献しているのかは明確にされていない。

2. 研究の目的

(1) そこで、本研究の目的は、様々な形の世代間移転(親から子への教育投資や遺産、生前贈与など)が、世代間の社会経済的地位の継承、またそれに伴う格差の継承にどの程度貢献しているのかを、日本などからの個票データを分析することによって明らかにすることである。さらに、分析結果に基づいて、格差を軽減するための政策提言を行い、そうすることによってこの深刻な問題の解決に役立つことを目指している。

(2) 本研究の貢献は以下の五点である。まず、第一に、本研究は、世代間の社会経済的地位および格差の継承における世代間移転の役割について検証しているほとんど初めての試みである。第二に、本研究は、親から子への移転を網羅的に捉え、様々な形の世代間移転(親から子への教育投資や遺産、生前贈与等)を同時に考慮している。第三に、本研究は、複数の国の状況を分析し、国際比較を行っている。第四に、今までは社会的な分析が多かったが、本研究は、経済学的な観点から分析を行っている。第五に、本研究は、分析結果に基づいて格差を軽減するための政策提言を行っている。

3. 研究の方法

本研究では、様々な国(日本、アメリカ、イタリア、ヨーロッパ全般)に関する様々な世帯調査からの個票データを用いて、遺産、生前贈与、教育投資などのような形の世代間移転の社会経済的地位の世代間の継承に与える影響について様々な分析を行い、そうすることによって、様々な形の世代間移転が、世代間の社会経済的地位の継承、またそれに伴う格差の継承にどの程度貢献しているのかを、明らかにしようとし、さらに、分析結果に基づいて、格差を軽減するための政策提言を行い、そうすることによってこの深刻な問題の解決に役立つことを目指した。

(1)まず、研究代表者のチャールズ・ユウジ・ホリオカと研究分担者の新見陽子教授は、Niimi and Horioka (2018)では、大阪大学社会経済研究所が 2003 年から定期的に日本、アメリカ、インド、中国の 4 ヶ国で実施している「くらしの好みと満足度についてのアンケート」からの日本調査の個票データを用いて教育投資や遺産の形の親から子の移転の重要性について綿密に分析している。

(2)また、ホリオカと研究協力者の Luigi Ventura 教授は、Ventura and Horioka (2020)と Horioka and Ventura (2024)では、それぞれイタリア銀行が 2 年に一回実施している Survey of Italian Households' Income and Wealth (SHIW) と題するアンケート調査とほとんどのヨーロッパ諸国において実施されている Survey of Health, Aging and Retirement in Europe (SHARE) と題する中高年齢者を対象としたアンケート調査(アメリカで以前から実施されている Health and Retirement Study (HRS)の「ヨーロッパ版」)からの個票データを用いてイタリアとヨーロッパ全般における退職世帯の資産蓄積行動について丁寧に分析し、遺産動機の退職世帯の資産蓄積行動に与える影響についても見ている。

(3)さらに、ホリオカと新見教授は、Niimi and Horioka (2019)では、ゆうちょ財団が 2 年に一

回実施している「家計と貯蓄に関する調査」と先ほど紹介した大阪大学社会経済研究所が実施している「くらしの好みと満足度についてのアンケート」からの個票データを用いて日本とアメリカの退職世帯の資産蓄積行動について細かく分析し、遺産動機の退職世帯の資産蓄積行動に与える影響についても見ている。

(4)次に、新見教授は Niimi (2022)では、慶應義塾大学経済研究所パネルデータ設計・解析センター（以前は財団法人家計経済研究所）が1993年以降毎年実施してきた「消費生活に関するパネル調査」からの個票データを用いて、未婚女性と結婚女性の資産蓄積行動について綿密に分析し、女性が自分の親から受け取った遺産が自分の資産に与える影響についても見ている。

(5)また、新見教授は Niimi (2019)では、先ほど紹介したゆうちょ財団が実施している「家計と貯蓄に関する調査」からの個票データを用いて、相続税改革の日本人の遺産行動に与える影響について丁寧に分析しており、新見(2023)は相続税と遺産行動との間の関係に関する網羅的な分析サーベイを行っている。

(6)最後に、ホリオカは、Horioka (2021) とホリオカ (2021)で、日本人の貯蓄行動と遺産動機に関する網羅的な文庫サーベイを行っており、特に日本においてライフサイクルモデル・仮説がどの程度成り立っているかという点に焦点を当てている。

4. 研究成果

主な研究成果だけ取り上げても、10本以上の研究論文を執筆し、出版し、そのほとんどは、*Applied Economics Letters*, *Demography*, *Fiscal Studies*, *Japan and the World Economy*, *Journal of the Japanese and International Economies*, *Review of Economics of the Household*, *Review of Income and Wealth*, *Singapore Economic Review*, *World Economy*をはじめ、一流の査読付き経済雑誌に掲載した。研究代表者と研究分担者が合わせて2名しかいなかったことを考慮すれば、本研究の研究成果は十分なものであったと言える。

(1)この研究の分析結果について紹介すると、Niimi and Horioka (2018)は、アメリカにおいても、日本においても、親の学歴と子の学歴との間に強い相関があり、しかも親または義理の親から遺産を受け取った人のほうが、遺産を受け取っていない人よりも遺産を子供に残す確率が有意に高いといった結果を得ており、その分析結果は、親から子への教育投資と遺産の形の移転は社会経済的地位の世代間の継承をもたらしているといったことを示唆する。

(2)また、Ventura and Horioka(2020)とHorioka and Ventura(2024)は、イタリアおよびヨーロッパ全般の退職世帯は緩やかにしか資産を取り崩しておらず、遺産動機を持っている人のほうが遺産動機を持っていない人よりも資産の取り崩し率が有意に低いといった結果を得ている。

(3)さらに、Niimi and Horioka (2019)は、日本についても、同様の分析結果を得ているが、遺産動機の資産蓄積率に与える影響はヨーロッパの場合ほど顕著ではないといった結果も得ている。これらの分析結果はヨーロッパにおいても、日本においても、親の子供への遺産動機は強く、それが世代間の社会経済的地位の継承をもたらしている可能性が高いといったことを示唆する。

(4)次に、Niimi (2022)は、日本では、自分の親から遺産を受け取った女性のほうが遺産を受け取っていない親よりも、自分が保有している資産が有意に多いといった結果を得ており、この分析結果も遺産が世代間の社会経済的地位の継承をもたらしているといったことを示唆する。

(5)また、Niimi (2019)と新見(2023)は、日本においても、諸外国においても、相続税は人々の遺産行動に有意な影響を与えるといった結果を得ており、この分析結果は、遺産は人々の資産蓄積行動を大きく左右するといったことを示唆する。

(6)最後に、Horioka (2021) とホリオカ (2021)は、遺産動機、遺産分配などに関する国際比較データを分析し、日本では遺産動機は強いが、アメリカ、インドなどのような国ほど強くはなく、しかも利他的な遺産動機よりも、利己的(戦略的)な遺産動機のほうが強いといった結果を得ている。

全体の結論としては、国によって程度の差はあるが、どの国においても、遺産、生前贈与、教育投資などのような親から子への移転は世代間の社会経済的地位および格差の継承に大きく貢献しており、相続税・贈与税の引き上げなどのような手段を用いることによって世代間移転を抑制し、奨学金や教育ローンの充実や大学教育などの無償化によって教育機会の均等化する必要があると言える。そのようにすれば、より平等な社会を実現し、より活力のある経済を構築することができるかと確信している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 19件／うち国際共著 6件／うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Horioka Charles Yuji、Ventura Luigi	4. 巻 70
2. 論文標題 Do the Retired Elderly in Europe Decumulate Their Wealth? The Importance of Bequest Motives, Precautionary Saving, Public Pensions, and Homeownership	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Review of Income and Wealth	6. 最初と最後の頁 187～212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/roiw.12632	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Adjei-Mantey Kwame、Horioka Charles Yuji	4. 巻 21
2. 論文標題 Determinants of health insurance enrollment and health expenditure in Ghana: an empirical analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Review of Economics of the Household	6. 最初と最後の頁 1269～1288
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11150-022-09621-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Niimi Yoko	4. 巻 59
2. 論文標題 Are Married Women Really Wealthier Than Unmarried Women? Evidence From Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Demography	6. 最初と最後の頁 461～483
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1215/00703370-9735271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 新見 陽子	4. 巻 151
2. 論文標題 世代間資産移転税制と家計行動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フィナンシャル・レビュー	6. 最初と最後の頁 132～153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57520/prifr.151.0_132	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Horioka Charles Yuji, Gahramanov Emin, Hayat Aziz, Tang Xueli	4. 巻 62
2. 論文標題 The impact of bequest motives on labor supply and retirement behavior in Japan: A theoretical and empirical analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101166 ~ 101166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2021.101166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Niimi Yoko	4. 巻 62
2. 論文標題 Juggling paid work and elderly care provision in Japan: Does a flexible work environment help family caregivers cope?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101171 ~ 101171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2021.101166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horioka Charles Yuji	4. 巻 19
2. 論文標題 Is the selfish life-cycle model more applicable in Japan and, if so, why? A literature survey	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Review of Economics of the Household	6. 最初と最後の頁 157 ~ 187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2021.101171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ventura Luigi, Horioka Charles Yuji	4. 巻 18
2. 論文標題 The wealth decumulation behavior of the retired elderly in Italy: the importance of bequest motives and precautionary saving	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Review of Economics of the Household	6. 最初と最後の頁 575 ~ 597
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11150-020-09511-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Akkemik K. Ali, Cicek Gercek, Horioka Charles Yuji, Niimi Yoko	4. 巻 27
2. 論文標題 The impact of a failed coup d'etat on happiness, life satisfaction, and trust: the case of the plot in Turkey on July 15, 2016	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters	6. 最初と最後の頁 1371 ~ 1375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11150-020-09486-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ	4. 巻 na
2. 論文標題 日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇井貴志・加納隆・土居潤子・西山慶彦 編『現代経済学の潮流2020』（東洋経済新報社）	6. 最初と最後の頁 35-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Charles Yuji Horioka and Yoko Niimi	4. 巻 na
2. 論文標題 Household Debt and Aging in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Olivia S. Mitchell and Annamaria L. Lusardi, eds., Remaking Retirement: Debt in an Aging Economy, (Oxford, England, U.K.: Oxford University Press)	6. 最初と最後の頁 207-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Charles Yuji Horioka and Yoko Niimi	4. 巻 -
2. 論文標題 Financial Literacy, Incentives, and Innovation to Deal with Population Aging	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Chul Ju Kim (ed), Aging Societies: Policies and Perspectives (Tokyo: Asian Development Bank Institute)	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Charles Yuji Horioka and Yoko Niimi	4. 巻 53
2. 論文標題 Was the Expansion of Housing Credit in Japan Good or Bad?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2020.100996	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 K. Ali Akkemik, Gercek Cicek, Charles Yuji Horioka, and Yoko Niimi	4. 巻 27
2. 論文標題 The Impact of a Failed Coup d'Etat on Happiness, Life Satisfaction, and Trust: The Case of the Plot in Turkey on July 15, 2016	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters	6. 最初と最後の頁 1371-1375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2019.1683137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Niimi Yoko, Horioka Charles Yuji	4. 巻 41
2. 論文標題 The impact of intergenerational transfers on wealth inequality in Japan and the United States	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The World Economy	6. 最初と最後の頁 2042 ~ 2066
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2019.1683137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Niimi Yoko	4. 巻 22
2. 論文標題 Does providing informal elderly care hasten retirement? Evidence from Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Development Economics	6. 最初と最後の頁 1039 ~ 1062
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/twec.12544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Niimi Yoko	4. 巻 23
2. 論文標題 Do borrowing constraints matter for intergenerational educational mobility? Evidence from Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Asia Pacific Economy	6. 最初と最後の頁 628 ~ 656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/rode.12395	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Niimi Yoko	4. 巻 40
2. 論文標題 The Effect of the Recent Inheritance Tax Reform on Bequest Behavior: Evidence from Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Fiscal Studies	6. 最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13547860.2018.1515005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Niimi Yoko, Horioka Charles Yuji	4. 巻 51
2. 論文標題 The wealth decumulation behavior of the retired elderly in Japan: The relative importance of precautionary saving and bequest motives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 52 ~ 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1475-5890.12181	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Horioka Charles Yuji	4. 巻 64
2. 論文標題 Are the Japanese Unique? Evidence from Saving and Bequest Behavior	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Singapore Economic Review	6. 最初と最後の頁 5 ~ 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2018.10.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見陽子	4. 巻 2018
2. 論文標題 高齢者介護の負担：家族介護者の睡眠への影響に焦点をあてて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊個人金融	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見陽子	4. 巻 2018
2. 論文標題 高齢者介護の負担：家族介護者の睡眠への影響に焦点をあてて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊個人金融	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件 (うち招待講演 34件 / うち国際学会 45件)

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 he Feldstein-Horioka Puzzle or Paradox after 44 Years: A Fallacy of Composition
3. 学会等名 2024 Southern Workshop in Macroeconomics (SWIM), Wellington, New Zealand (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yoko Niimi
2. 発表標題 The Role of Intergenerational Transfers in the Within-couple Wealth Gap
3. 学会等名 18th East Asian Economic Association (EAEA) International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2. 発表標題 日本経済学会会長就任記念講演：40年の研究者生活から日本の家計行動について何を学んだか
3. 学会等名 第47回アジア成長研究所（AGI）成長戦略フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Is the Feldstein-Horioka Finding Really a Puzzle? The Feldstein-Horioka Puzzle after 43 Years
3. 学会等名 International Conference on Growth, Resilience, and Sustainability in an Uncertain World, Central University of Rajasthan, India（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 In the Future World, the 'What Kind of Economy' Paradigm: The Age of Uncertainty Revisited"
3. 学会等名 100th Anniversary Izmir Economic Congress: "Turkish Economy on the Way to Become a Global Economic Power," Izmir, Turkey（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan
3. 学会等名 Korean Economic Association-Korea University International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan
3. 学会等名 2022 Asian Meeting of the Econometric Society in East and Southeast Asia, Singapore (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2. 発表標題 会長講演：The Feldstein-Horioka Puzzle after 43 Years
3. 学会等名 日本経済学会2022年度秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Feldstein-Horioka Puzzle after 43 Years
3. 学会等名 Banque de France Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan
3. 学会等名 18th East Asian Economic Association (EAEA) International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Why Do Europeans Save? Micro-Evidence from the Household Finance and Consumption Survey
3. 学会等名 37th General Conference of the International Association for Research in Income and Wealth (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoko Niimi
2. 発表標題 Juggling Paid Work and Elderly Care Provision in Japan: Does a Flexible Work Environment Help Family Caregivers Cope?
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 "The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan"
3. 学会等名 2021 Annual Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO) (organized by Boston University) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2. 発表標題 "The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan"
3. 学会等名 京都大学大学院経済学研究科応用ミクロ経済学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2. 発表標題 日本の家計経済研究からみたポストコロナの家計貯蓄・消費行動
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所・社会システムイノベーションセンター主催シンポジウム「ポストコロナの家計経済を考える - 持続可能な地域社会を創るために -」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoko Niimi
2. 発表標題 "Juggling paid work and elderly care provision in Japan: Does a flexible work environment help family caregivers cope?"
3. 学会等名 Population Association of America 2021 Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoko Niimi
2. 発表標題 "Are Married Women Really Wealthier than Unmarried Women? Evidence from Japan"
3. 学会等名 36th IARIW (International Association for Research in Income and Wealth) General Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 "Intergenerational Transfer of Wealth"
3. 学会等名 100 Year Lives in Asia Online Conversation Series, Episode 4 (The University of Chicago Francis and Rose Yuen Campus in Hong Kong) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 "An International Comparison of Bequest Motives?"
3. 学会等名 Third Xavier School of Economics Webinar (Xavier School of Economics, Xavier University Bhubaneswar, India) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 "The Impact of Bequest Motives on Labor Supply and Retirement Behavior in Japan"
3. 学会等名 The International Conference on Changing Family Life in East Asia (Academia Sinica, Taipei, Taiwan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoko Niimi
2. 発表標題 "Juggling paid work and elderly care provision in Japan: Does a flexible work environment help family caregivers cope?"
3. 学会等名 The International Conference on Changing Family Life in East Asia (Academia Sinica, Taipei, Taiwan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 "The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan"
3. 学会等名 Virtual Workshop on the Economic Impacts of Demographic Transition: Cases of Asia and Europe (Asian Development Bank Institute and Fulbright School of Public Policy and Management) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoko Niimi
2. 発表標題 "Juggling paid work and elderly care provision in Japan: Does a flexible work environment help family caregivers cope?"
3. 学会等名 Virtual Workshop on the Economic Impacts of Demographic Transition: Cases of Asia and Europe (Asian Development Bank Institute and Fulbright School of Public Policy and Management) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2. 発表標題 住宅ローンの供給拡大の是非を問う
3. 学会等名 2020年度 Household Finance & Economicsコンファレンス (一橋大学経済研究所) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Aging and Debt in Japan
3. 学会等名 Pension Research Council Conference on "Remaking Retirement: Debt in an Aging Economy," University of Pennsylvania (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新見陽子
2. 発表標題 Financial Literacy, Incentives, and Innovation to Deal with Population Aging
3. 学会等名 Think20 (T20) Japan Summit, Asian Development Bank Institute, Toranomon Hills Forum, Tokyo, Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Impact of Bequest Motives on Labor Supply and Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis
3. 学会等名 7th Kobe University-Nanyang Technological University-Hanyang University Joint Symposium in Economics, Seoul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Was the Expansion of Housing Credit in Japan a Good Thing or a Bad Thing?
3. 学会等名 15th Annual Meeting of the Asia-Pacific Economic Association (APEA), Fukuoka University, Fukuoka, Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Impact of Bequest Motives on Saving, Labor Supply, and Caregiving Behavior
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference 2019, Mandarin Orchard Hotel, Singapore (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新見陽子
2. 発表標題 Does Marriage Really Help Women Accumulate Wealth? Evidence from Japan
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference 2019, Mandarin Orchard Hotel, Singapore (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Do People Leave Bequests, and If So, Why and Does It Matter?
3. 学会等名 Kyoto University Faculty of Economics 100th Year Anniversary International Conference, Kyoto University, Kyoto (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Macroeconomic Stability of the Era of Population Aging
3. 学会等名 Asia-Pacific Social Protection Week 2019: Securing the Future of the Region, Asian Development Bank, Manila (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Inequality and Bequests
3. 学会等名 Inequality and ...? Lecture Series, European Investment Bank and University of Luxembourg, Luxembourg (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Impact of Bequest Motives on Labor Supply and Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis
3. 学会等名 Japan Seminar, Banque de France and l'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales (EHESS), Paris, France (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新見陽子
2. 発表標題 Does Marriage Really Help Women Accumulate Wealth? Evidence from Japan
3. 学会等名 Japan Seminar, Banque de France and l'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales (EHESS), Paris, France (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2. 発表標題 日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか？
3. 学会等名 日本経済学会2019年度秋季大会特別報告(神戸大学) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy
3. 学会等名 6th International Workshop on the Socio-Economics of Ageing (IWSEA), Universidade de Lisboa, Lisbon, Portugal (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新見陽子
2. 発表標題 Juggling Paid Work and Elderly Care Provision in Japan: Does a Flexible Work Environment Help Family Caregivers Cope?
3. 学会等名 6th International Workshop on the Socio-Economics of Ageing (IWSEA), Universidade de Lisboa, Lisbon, Portugal (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 Is the Expansion of Housing Credit in Japan Good or Bad?
3. 学会等名 Workshop on Trade, Development, and Inequality, School of Economics and Management, Wuhan University, Wuhan, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新見陽子
2. 発表標題 Juggling Paid Work and Elderly Care Provision in Japan: Does a Flexible Work Environment Help Family Caregivers Cope?
3. 学会等名 Workshop on Trade, Development, and Inequality, School of Economics and Management, Wuhan University, Wuhan, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Charles Yuji Horioka
2. 発表標題 The Feldstein-Horioka Puzzle after Forty Years
3. 学会等名 Workshop on Trade, Finance and Innovation, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, Kobe, Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Niimi, Yoko
2. 発表標題 Do Borrowing Constraints Matter for Intergenerational Educational Mobility? Evidence from Japan
3. 学会等名 Society of Economics of the Household (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horioka, Charles Yuji
2. 発表標題 The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy
3. 学会等名 Society of Economics of the Household (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Niimi, Yoko
2. 発表標題 Do Borrowing Constraints Matter for Intergenerational Educational Mobility? Evidence from Japan
3. 学会等名 Econometric Society Australasian Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horioka, Charles Yuji
2. 発表標題 The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy
3. 学会等名 Econometric Society Australasian Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Niimi, Yoko
2. 発表標題 Do Borrowing Constraints Matter for Intergenerational Educational Mobility? Evidence from Japan
3. 学会等名 International Association for Research in Income and Wealth (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horioka, Charles Yuji
2. 発表標題 The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy
3. 学会等名 International Association for Research in Income and Wealth (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Niimi, Yoko
2. 発表標題 Does Marriage Help Women Accumulate Wealth? Evidence from Japan
3. 学会等名 East Asian Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horioka, Charles Yuji
2. 発表標題 The Wealth Decumulation Behavior of the Retired Elderly in Japan: The Relative Importance of Precautionary Saving and Bequest Motives
3. 学会等名 East Asian Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新見陽子
2. 発表標題 Does Marriage Really Help Women Accumulate Wealth? Evidence from Japan
3. 学会等名 第18回パネル調査カンファレンス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horioka, Charles Yuji
2. 発表標題 Financial Literacy, Incentives, and Innovation to Deal with Population Aging
3. 学会等名 OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development)-Asian Development Bank Institute (ADB) Roundtable on Capital Market and Financial Reform in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://www.rieb.kobe-u.ac.jp/faculty/global_finance/y_horioka.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新見 陽子 (NIIMI Yoko) (30742647)	同志社大学・政策学部・教授 (34310)	遺産、教育投資の研究

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 International Symposium on Household Economics	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Workshop on Family Economics, University of Hawaii, Manoa	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------